

ナルナル的 菌活書評

【森の樹木の驚異の生態戦術】



この世の生物の生態は、まだまだ不明で、謎だらけです。深海の生物などは、高性能の潜水艇が開発されてはじめてその生態に近づくことができました。微生物や細胞の世界も高性能の顕微鏡、DNA の高速で低廉価な分析解析器が開発され、知らぜたる生態が次々と明らかになってきました。

『マザーツリー』の著者のスザンヌ・シマードはカナダの森林生態学者で、ちょっと変わった女の子だったようです。

植物を見つけることに生涯を捧げた牧野富太郎は朝ドラで一躍有名になりました。彼は幼い頃から植物が大好きで、野山を駆け巡っては植物の名前を調べました。

シマードはカナダの木こりの家に生まれ、森林の中で生まれ育ちました。家族と一緒に山に入り自然の中で遊ぶ日々で、リスや鹿などの動物、時には熊ともよく遭遇しました。彼女はキノコも好きでした。森の中では多彩なキノコが生えていて、枯れ木にもキノコの菌糸らしいものがある、それは白や黄色などの多彩な色のものもありました。また、地面の枯葉を覗いた土の中にも同じような菌糸がたくさんあることに気がつきます。

さらに、菌糸や土の匂いをかいで食べることも好きだったようです。土を食べる少女だったのです。大きくなった彼女は大学の研究員となり森林の中の地下で繋がっているらしいキノコの菌糸(菌根菌)の生態研究を始めます。

持続可能な森林の樹種の研究も始めます。小さな苗木が大きく育つまで調査し続けるこの仕事は今

も行なわれています。何十年も行われる研究です。

さて、彼女は単一の樹種よりも複数の樹種が混ざった混合林の方が病気が少ないことを発見します。政府の森林局は、この結果についてよく思っていない。これまでの政策が否定されてしまうからです。ですが、彼女はさらに研究をすすめます。本のタイトルにもなっているマザーツリーを発見するので。それは、森の中の古い大木が森全体に葉の光合成で作った糖分を供給しているということです。

これによって日陰の苗木にも養分が供給されます。

さらに研究は進みます。すると大木は、自分の直接の子孫の苗木に優先して養分を与えていることがわかったのです。驚きですね。どうやって見分けているのでしょうか。この著者は有名な映画『アバター』の原案とされています。

そして著者を主人公とした本の内容は映画化が進んでいます。

森の神秘を知りたい人にお勧めの本です。

詳細はダイヤモンド社の HP にどうぞ特集ページがあり、翻訳者の三木さんの記事も楽しいですよ。

	低い ⇄ 高い
難易度	★ ★ ★ ☆ ☆
活菌度	★ ★ ★ ★ ★
面白さ	★ ★ ★ ★ ★
新規性	★ ★ ★ ★ ★

書名	マザーツリー 森に隠された「知性」をめぐる冒険
著者	スザンヌ・シマード 三木直子訳
出版社	ダイヤモンド社
発行日	2023/1/10
価格	本体 2,200 円+税